

# 清里区、櫛池隕石のゆるキャラ誕生！



平成25年7月26日の上越タイムス記事

## 星のふるさと館キャラ

上越市清里区の星のふるさと館が募集していたキャラクター写真①の愛称が「くしりん」に決まった。同館で20日、名付け親の同市五智生の主婦、川合千鶴子さん(66)に記念品が贈られた②同③。



くしりんです



## 上越・清里区 名付け親に記念品

月に募集。市内外から29点の応募があった。そのうち「くしりん」は、親しみやすい響きを持ち、隕石が落ちた櫛池地区の「くし」と、地域で凜とした存在であってほしいという願いが感じられることから、星のふるさと館の運営をサポートする天文指導協力員が選んだ。

隕石の展示スペース前で行われた贈呈式では、同会の稲葉浩一会長が川合さんに漬物約3きを贈呈。川合さんは「上越市の皆さんに愛されるキャラクターになつてほしい」とあいさつした。

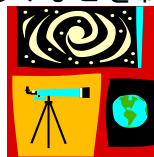


県内でも珍しい隕石をPRしようと、同区青柳の「上越清里星のふるさと館」と、同館の運営を支える天文指導協力員がキャラクターのデザインを公募で決定した後に愛称を募集した。

応募のあった29点の愛称で人気投票を実施。地元小学校や一般市民からの投票結果を参考にして、天文指導協力員らによる審査で決定した。

櫛池をイメージさせる単語が入っていたことと、「りん」という響きが子供を中心に人気があったことなどから決めた。今後はグッズや着ぐるみなどを制作してPRに活用していく予定だという。

(上越タウンジャーナルより抜粋)



上越清里星のふるさと館では、マスコットキャラクターに決定した「くしりん」を通して、宇宙や星をもっと身近に感じてほしいと思っています。

楽しく、仲よく星空を見上げながら、未来という宇宙空間を、夢見る力を推進力に進んでいこうではありませんか。



ぼく、くしりん！  
ぼくの大好きな宇宙や星を  
みんなにも好きになってもらいたいな！





「突如天空に飛行機の爆音の如き大音響聞（きこ）ゆると思うまもなく、夕陽さす空中より黒煙を立てて何物か落下し来たれるものあり。青田に落下するや泥土の下二三尺も埋まりたれば、字内の人達は驚きその現場に駆け付けたるに、青田の稲五尺四方は泥が四散し、稲は飛ばされいたれば字内一同協議の上、消防組員と共同して掘り出したるに直径六寸の石塊にて、外面は赤銅色を呈しおるも中は金色に光りおる珍石にて、右は多分流星の落下し来たれる隕石なるべく協議の結果、大字内に於いて珍藏する事に決せるが、かかる大なる隕石の落下し来たれるは珍しきことと言ふべし」（1920年9月18日付）



大正9年9月16日の夕刻6時ごろ、南方の空から「ゴオーッ」という飛行機の爆音のような大音響が村の空をはした。村人たちが驚いて戸外に出て空を見上げたが何も見えず、ただ一条の光を見ただけだった。やがて爆音のような音は、落下音に代わり、榊池川の北西岸、上中条集落の水田に落下、水煙が約9mも舞い上がり、水蒸気が立ち上がった。

村人たちは恐怖と好奇心で見守り、いろいろ取りざたするうちに、消防団長が決死の勇気をふるって、土中深さ約1mの中から拾い上げた。これを見て当時の小学校の校長が「これは隕石と言ひ、星が落下したものである」と断定した。

隕石は昭和49年（1974年）3月30日、新潟県天然記念物に指定された。現在は星のふるさと館（冬季休館）に展示されており、新潟自然科学館にもレプリカが飾られている。隕石の落下地点は、隕石落下公園として整備され、モニュメントやクレーターも再現されている。

↓ 隕石落下公園。落下地点にある三角形のモニュメントは、この角度で隕石が落下したことを示す。



↑ 「榊池隕石」（星のふるさと館で特別展示）